

# 神奈川県水産試験場研究報告

## 第 13 号

### 目 次

東京湾の小型底びき網の漁業管理に関する研究 - 網目拡大による効果の再計算 .....	清水詢道	1
日本海スルメイカ北上群の漁況予測 .....	三谷 勇	9
東京湾の奇形マダコについて .....	今井正昭	19
定置網漁況からみた相模湾の生産性に関する考察 - 3 価格分布による生産者魚価の動向 .....	木幡 孜・江川公明・菊池康司	27
標識放流・海域別年令別漁獲尾数・漁獲試験によるキンメダイの分布生態 .....	木幡 孜・今井正昭・杉浦暁裕・戸井田伸一・ 久保島康子・田島良博	41
遊漁船による瀬の海漁場の利用実態について .....	小林良則	53
東京内湾域における貧酸素水の季節的消長 .....	山田佳昭	65
東京湾口におけるサクラエビ生態調査について - 成体と卵分布 .....	一色竜也・田島良博	73
神奈川県沿岸海域で漁獲されるいか類の研究 - いかの漁獲状況 .....	久保島康子	79

# 神奈川県水産試験場研究報告投稿規定

## 投稿資格

報文の発表者は当场職員に限る。但し、業務委託による委嘱者、共同研究などによって生じる者の場合はその限りではない。

## 原稿の受付

この規定に従って記述された報文原稿は、編集委員会が随時受付ける。

## 校閲

受け付けられた報文は、複数の編集委員の校閲を速やかに受けるものとする。報文の内容に関して問題があると編集委員が判断したときは、委員会として投稿者にその旨を通告し、投稿者と協議するものとする。

## 報文の受理

校閲者とその報文の掲載を可とし、これを編集委員会が承認した日付をもって、その報文の受理の日付とする。

## 用語と制限ページ

報文の用語は日本語または英語とする。

報文の長さは原則として、図表を含めて刷り上がり10ページ以内<sup>#</sup>とし、それを越える時は編集委員会と協議する。

## 原稿の部数

原稿は、本文・表・図を問わず、すべて2部（1部はコピーで可）を編集委員会に提出する。

## 原稿の用紙と書き方

原稿は和文に関してはワープロを用いてA4版横書き用紙に1ページあたり25文字×22行で簡潔平易に書き、英文に関しては通常のタイプ用紙にダブルスペースでタイプする。和文中に出てくる外国語はタイプするか、あるいは活字体で書く。

原稿用紙の行末に句読点がある場合は、次行の最初にその句読点を入れる。

句点には「。」、読点には「、」を使用する。

## 構文の構成

報文の構成は原則として以下の通りとする。

和文：表題、著者名、英文表題、英文著者名、英文解説（Abstract or Synopsis、原則としてつける）、本文、摘要（つけなくてもよい）、引用文献、英文摘要（つけなくてもよい）。

英文：表題、著者名、日本語表題、日本語著者名、AbstractあるいはSynopsis（原則としてつける）、本文、摘要（つけなくてもよい）、引用文献、和文摘要。

その他：県職員は所属、県職員以外の外部投稿者は所属機関、所在地を脚注に付す。

## 表題

表題は簡潔に論文の内容をあらわすようなものとする。とくに、表題に共通表題、連続番号および副題を併記したいときは例のようにする。

例)

小田和湾の藻場の魚類 -

群集の地域性と持続性

Fishes of Zostera Zone in Odawa Bay -

Locality and continuity of fish communities

---

<sup>#</sup> 日本文では原稿用紙4枚が1印刷ページに相当する。

英文では1行10語、25行の場合、約4枚で1印刷ページに相当する。

## 著者名

和文で連名のときは「・」で連ねる。ロ - マ字書きの様式は名の頭文字をキャピタル，後をスモール，姓の頭文字をキャピタル，後をスモールキャピタルにし，3名以上連名のときは「，」で連ね，最後の名は「， and」でつなく。例)

山田太郎・川上次郎・山川三郎

YAMADA Taro, Jiro KAWAKAMI, and Saburo YAMAKAWA (2人以上のとき)

Saburo YAMAKAWA (1人のとき)

## 所属(本文第1ページ脚注)

投稿者の所属は，ロ - マ字書きの著者名の右肩に「#」をつけ，本文第1ページの脚注に入れる。所属名が複数の場合は「#」，「##」，「###」のようにする。所在地は郵便の届く程度のものとする。

例1) 場員などの場合

山田太郎 Taro YAMADA #

脚注# 資源研究部(本場職員の場合)

相模湾試験場(相模湾試験場職員の場合)

例2) 県職員以外の外部投稿者

山田太郎 Taro YAMADA #

脚注# 長崎大学水産学部 長崎市文教町852

例3) 英文原稿の場合

Taro YAMADA 山田太郎

脚注# Faculty of Fish. The University of Nagasaki, Bunkyo machi, Nagasaki, 852 (長崎大学水産学部)

## ランニングタイトル (誌面上部欄外に載せる表題を簡潔に短縮した形のもの)

和文原稿では和文で20字以内，英文原稿では英文で語間空白分を含めて50字以内とし，原稿第1ページの上部欄外に記載する。

## 原稿第1枚目の書き方

原稿の第1枚目は表紙とし，その上半部には，表題からはじめて，和文の場合は英文著者名まで英文の場合は日本文著者名までを書くものとする。

また，ランニングタイトル，表題および著者名に付随する脚注もこのページに記載する。

## AbstractあるいはSynopsis

英文のAbstractあるいはSynopsisについては，原稿2枚目にこれだけを書く。

## 本文

本文は，原稿の第3枚目から書き始め，原則として，緒言(はしがき)，材料および方法(実験方法，調査方法)，結果，考察，摘要(要約)，引用文献の順序に従い，見出しは2行どりで中央にゴジックで記載する。材料および方法の項のうち試料，分析法などの小見出しおよび結果の項のなかの小見出しは1行どりで左端に寄せてゴジックとする。

## 謝辞

とくに長い謝辞が必要な場合は，別項目としてもよいが，その場合は引用文献の前に入れる。

## 生物名・人名・単位など

動物・植物名の和名はカタカナ書きとし，学名はイタリックを指定する。同じ学名が繰り返して出るときは，2度目以降は，混同の可能性のない限り属名を略記する。命名者を入れる場合はロ - マンで入れる(頭文字をキャピタル，後をスモールキャピタル)。

人名の姓は，英語で書く場合は，頭文字をキャピタル，後をスモールキャピタルとする。単位はメートル法とする。

## 文字の指定

文章中文字の指定のあるときは，アンダーラインをして，ゴジックはゴジ(g)，イタリックはイタ，スモールキャピタルはs.c.などと指定する。

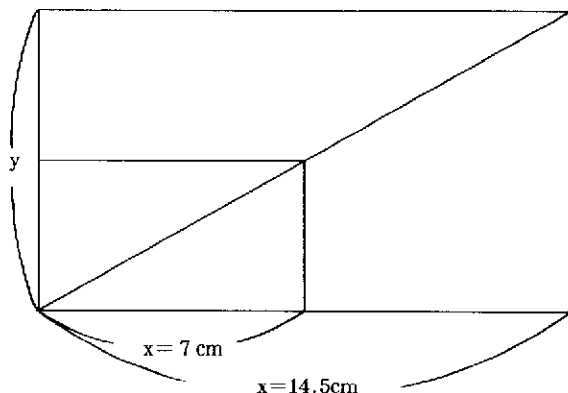
数式のうわつき，したつきの記号，およびギリシャ文字は明瞭に指定する。

## 図，表の書き方

刷り上りの図の大きさは原則として横幅が最大14.5cm，または7cmとなるので，原図の横幅はそれぞれの2倍程度とする。図中の文字の刷り上りの大きさも考慮して，レタリングする。また，図の大きさと活字数は，下表の例のとおりなので，刷り上りページも十分考慮して作図する。

表は印刷1ページ（B5）以内に収まるよう考慮する。

図表原稿は本文と別葉にし，挿入箇所を本文原稿中の右欄外に朱書すること。



	$x = 7\text{ cm}$	$x = 14.5\text{ cm}$
$y = 3\text{ cm}$	175	350
4	225	450
5	275	550
6	325	650
7	375	750
8	425	850
9	500	1,000
10	550	1,100
11	600	1,200
12	650	1,300
13	700	1,400
14	750	1,500
15	825	1,650
20	1,075	2,150

## 図，表の説明

表の説明は，表そのものの上部に書き，図の説明は別葉とする。番号はゴシックで「表1」「Table 1」，「Fig 1」とする。和文報文中には英文説明，和文説明を併記する。各図表の右肩には鉛筆で著者名と番号を記入する。

## 引用文献

本文中の文献の引用は，次の例に従う。また3名以上のものについては「・・・他」または「・・・et.al」とする。

例)

山田・森（1976）は・・・ YAMADA・MORI（1976）・・・  
 ・・・と考えられる（山田 1951，1953a.b）。  
 ・・・（YAMADA1951，1953a.b）。

引用した文献の配列は引用した順とし，本文中に肩カッコで番号をつける。また，同一著者の同一年の発表のものについては年号のあとにアルファベットを付けて区別する。続いて引用する同一著者名は「-」のように，同じ雑誌が並ぶときも，同誌（ibid）などと略してはならない。

ただし，同一機関発行の同一文献を累年にわたって引用した場合は，以下のように略してもよい。

例)

神奈川県水産試験場（1973 - 77）：昭和47 - 51年度漁況海況予報事業結果報告書。

各文献は次の形式にのっとり，下記の例にならって記載すること。

雑誌の場合 - 著者名（年号）：論文表題，掲載雑誌名，巻（号），ページ

単行本の場合 - 著者名（年号）：表題，発行所，発行地（よく知られている発行所は省いてもよい），ページ数  
 例)

ODUM, E. P. (1971): Fundamentals of ecology, 3rd ed. W. B. Saunders. Philadelphia, 14 + 574pp  
 山田一郎・田中明・鈴木正雄（1975）：東京湾の水質について，水産海洋研究会報，20，25 - 32

YAMADA, I., A. TANAKA and M. SUZUKI (1975): On the water quality of Tokyo Bay,  
Bull. Japan. Soc. Fish. Oceanogr., 20, 25 - 32.

私信，未発表などは引用文献の項には記載しない。

## **校正**

報文の校正は原則として，すべて著者が行う。

校正は印刷のミスについてのみ行うものとし，本文や図・表を変更しないこと。

## **規定の適用**

この規定は神奈川県水産試験場研究報告第14号から適用する。

この規定の改訂は，編集委員会の承認を得て行う。

本 報 告 略 号

神 水 試 研 報

Abbreviation of this bulletin  
- Bull. Kanagawa Pref. Fish. Exp. Stn. -

## 編 集 委 員 会

委員 長 亀山 勝  
委 員 石戸谷博範、今井 利為、柴田 勇夫  
清水顕太郎、清水 詢道、杉浦 暁裕  
田村 和男、中村 良成、沼田 武  
樋口 智明、前川 千尋、三谷 勇  
山本章太郎

---

平成 4 年10月31日 印 刷

平成 4 年10月31日 発 行

発行所 神 奈 川 県 水 産 試 験 場

神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

電話 (0468)82 - 2311 (代)

Fax. (0468)81 - 7903

郵便番号 238 - 02

発行者 小 林 良 雄

印刷所 朝日オフセット印刷株式会社

BULLETIN  
OF THE  
KANAGAWA PREFECTURAL  
FISHERY EXPERIMENTAL STATION

No. 13

---

CONTENT

SHIMIZU T. : Study on the Fisheries Management for Small Beam Trawlers in Tokyo Bay - Evaluation of the Effects caused by Changes in Mesh Size and Knotting Methods. ....	1
MITANI I. : Predicting Fishing Condition of the northing Japanese Common Squid, <i>Todarodes pacificus</i> Steenstrup, in Japan Sea.....	9
IMAI M. : Deformed Octopuses with branched Arms in Tokyo Bay. ....	19
KOBATA T., K. EGAWA, K. KIKUCHI : Economical Productivity in Sagami Bay - 3 The Trend of Producer's Price of Fish by the Frequency Distribution of Price. ....	27
KOBATA T., M. IMAI, A. SUGIURA, S. TOIDA, Y. KUBOSHIMA, Y. TAJIMA : Distribution of <i>Alfonsino</i> , <i>Beryx splendens</i> Lowe by Marking Method, Age Composition and Fishing Experiment.....	41
KOBAYASHI Y. : Examination of Fishing Operation and Catch by Game Fishing in Senoumi.....	53
YAMADA Y. : Seasonal Rise and Fall of Oxygen - Deficient Water at Shallow Region in Tokyo Bay. ....	65
ISSIKI T., Y. TAJIMA : The Research of Sergestid Shrimp, <i>Sergia lucens</i> (Hansen), in the Mouth of Tokyo Bay - I The Seasonal Distribution of Adult and the Distribution of Egg.....	73
KUBOSHIMA Y. : Study on the Squids caught in Coastal Waters of Kanagawa Prefecture - I Catch of Squids.....	79

---

KANAGAWA PREFECTURAL FISHERIES EXPERIMENTAL STATION  
MISAKI , JAPAN  
1992